

かふうかい

嘉風会

平成24年入会

◆設立(平成15年)

昭和25年 4歳の時、徳島で母が習っていた観世流 故秋山先生に2年間、謡・仕舞を習い、父の転勤で東京では観世流師範 故藤田一に師事。父の定年後、徳島で観世流師範 故寺内久視子に師事。昭和57年より井上家10代目当主 観世流職分 故井上嘉介(国指定重要無形文化財「能楽」総合指定保持者)に師事。平成15年、名誉師範(素人籍)を取得。平成15年、井上嘉介師より井上家家名「嘉介」の一字を賜り「嘉風会」を許される。嘉風会発会式を阿波観光ホテルで行う。平成18年 観世流能楽師 師範(玄人籍)を取得。井上同門会に所属、京都・大阪・徳島で公演活動。

◆代表者

はしもとはるこ
橋本ハル子



◆邦楽大会出演の記録

- 第45回 独吟「駒の段」仕舞「草子洗小町」
- 第46回 独吟「敦盛」仕舞「蟬丸」
- 第47回 連吟「田村」仕舞「羽衣」
- 第48回 仕舞「桜川」
- 第49回 子ども・学生の部 素謡「鶴亀」
仕舞「熊野」
- 第50回 仕舞「田村」／子ども・学生の部
謡「高砂」仕舞「玄象」

◆会派について

能楽は、寺社の祭礼などで神への奉納芸として演じられ、南北朝時代に能の原型のようなものが出来た。観世座(観世流)の観阿弥・世阿弥父子によって、今日まで伝わる能の芸術性を確立、室町幕府三代将軍足利義満の絶大な庇護を受け、又江戸時代には幕府の式楽(公式儀式に用いる音楽)となる。

観世流は優美で繊細な芸風。京都の井上家は元禄期より京都に住し、京都観世五軒家(京観世)の蘭家の婚姻弟子家として斯道に従事し、蘭家が絶えた後も蘭家の伝統を守り、現在十一代目当主観世流準職分国指定重要無形文化財「能楽」総合指定保持者井上裕久が流儀を伝えている。

◆稽古場

自宅 徳島市八万町法花131
090(5278)4322

徳島市中央公民館「成人大学・謡、仕舞をたのしもう講座」(徳島市教育委員会主催)
八万コミュニケーションセンター「八万能楽子ども教室」(文化庁主催)

普及活動について

京都・大阪・徳島で、井上同門定期能楽の会、同研能楽の会など公演活動。平成20年度より毎年、文化庁主催「文化芸術による子ども育成事業(学校への芸術家派遣事業)」では、京都より観世流準職分、国指定重要無形文化財「能楽」総合指定保持者吉浪壽晃ら数人の能楽師らと共に、八万南小学校、鳴門教育大附属小学校など県下30校程で能楽体験授業を行っている。平成21年、文化の森近代美術館や21世紀館で吉浪壽晃らと共に、親しみやすい能楽入門教室を実施。平成24年、県主催子育て支援事業で、板野西幼稚園など4園で「楽しく能楽体験」を実施。平成27、28年、徳島県民活動プラザとの共催「やってみよう♪能楽体験」を京都より井上裕之真、吉浪壽晃を招き実施。平成20年より毎年県民文化祭に参加。平成22年より毎年学校邦楽育成会主催「こども邦楽演奏会」出演。平成24年26年28年、徳島市協議会主催「コミュニケーション」出演。平成24年「蜂須賀桜と武家屋敷一般公開」で謡「高砂」披露、飯泉知事にも「高砂」

体験してもらう。平成25年より徳島市文化協会主催「こどもパフォーマンス」、平成25年より徳島市芸能祭出演。平成25年より邦楽大会に出演。平成31年2月文化の森主催「はじめての能」で展示や体験で能を紹介。3月文化の森主催「ろうそく能」（照明をろうそくの灯だけで演ずる大変珍しい演出）で「文化の森 能楽へのご招待『安達原』を京都より観世流準職分、国指定重要無形文化財「能楽」総合指定保持者井上裕久 出演。

「能」は日本の芸能の原点で、日本人が大切にしてきた日本の心を深く静かに表現している。言葉も難しく堅苦しく、つまらないと誤解され敬遠されがちですが、能を楽しむDNAは現代人にもあります。今、子供のイメージや人の心が荒廃した様な悲しい残念なニュースが多い世の中だからこそ、昔から人の心を和ませ豊かにすると言われてきた『鎮魂の芸術』（能・謡・仕舞）を多くの方々に楽しんで頂き、和やかな世の中になって欲しいと心より願い、謡、仕舞の指導だけでなく楽しさをも伝え、一流の能楽師らと共に能の伝承と発展を願い、微力ながら地域社会に貢献できるように努力しています。

〔橋本ハル子〕



平成24年10月
津田小学校にて文化庁事業
「文化芸術による子供の育成事業・能楽体験授業」
「敦盛」を舞う。



平成24年3月
原田住宅
「蜂須賀桜と武家屋敷の会一般公開」に於いて
飯泉知事を交えての能楽体験 謡「高砂」披露



平成28年10月
アスティとくしま
わくわくコミュニティフェスタ インとくしま
謡「吉野天人」



平成25年10月
あわぎんホール
第45回邦楽大会
仕舞「草子洗小町」